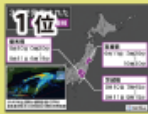
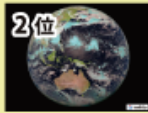
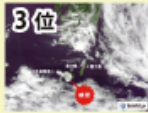









【報道関係各位】※訂正再送付

2015年12月9日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会が選ぶ「2015年お天気10大ニュース・ランキング」決定 第1位は、台風18号による大雨 「平成27年9月 関東・東北豪雨」

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、会長：縄野 克彦、以下「日本気象協会」）は、日本気象協会に所属する気象予報士100名が選ぶ「日本気象協会が選ぶ2015年お天気10大ニュース・ランキング」を決定いたしましたので、発表いたします。

	台風第18号による大雨（平成27年9月関東・東北豪雨）
	ひまわり8号の運用開始
	口永良部島で噴火警戒レベル5 箱根山なども火山活動が活発化
	4 東京の猛暑日8日連続 過去最長を記録
	5 元日 都心で9年ぶりの雪 京都は大雪の初詣
	6 台風第11号 近畿地方で記録的な雨
	7 台風第21号 八重山地方が暴風、低気圧に変わり北海道でも暴風
	8 西日本冷夏 降水量も多く 鹿児島6月に1300.5ミリと過去最多
	9 北陸地方で大雪 福井県では数百台の自動車が立ち往生
	9 桜前線が最速でゴール 北海道 春の高温が影響

（※同率9位が2件）



■ 「日本気象協会が選ぶ2015年のお天気10大ニュース・ランキング」

「日本気象協会が選ぶ2015年のお天気10大ニュース・ランキング」は、気象を中心に、地象や水象などの日本気象協会が取り扱う情報の中から、日本気象協会に所属する気象予報士100名が、2015年に特に印象に残ったニュースを選んだものです。

※2015年11月までの情報で選定。気象予報士100名にアンケートを実施し、投票結果をポイント化してランキング。



■上位にランクインしたニュースに関して

1位 台風第18号による大雨（平成27年9月関東・東北豪雨）

台風第18号は、9月9日10時過ぎに愛知県知多半島に上陸した後、日本海に進み、9日21時に温帯低気圧に変わりました。台風第18号や台風から変わった低気圧に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響で、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となりました。特に関東地方と東北地方では記録的な大雨となり、大雨特別警報が宮城県・茨城県・栃木県に発表されました。降水量は、関東地方で600ミリ、東北地方で500ミリを超え、9月の月降水量平年値の2倍を超える大雨となった所がありました。この大雨で、茨城県を流れる鬼怒川の堤防が決壊するなど、土砂災害、浸水、河川のはん濫などが発生し、宮城県・茨城県・栃木県で計8名が亡くなり、住宅に多くの被害が出ました。9月9日から11日に関東地方および東北地方で発生したこの豪雨は、「平成27年9月関東・東北豪雨」と命名されました。

2位 ひまわり8号の運用開始

7月7日、新しい静止気象衛星ひまわり8号の運用が開始しました。ひまわり8号は、7号の後継機として2014年10月7日に種子島宇宙センターから打ち上げられました。世界最先端の観測能力を有する可視赤外放射計を搭載した、静止気象衛星です。アメリカやヨーロッパに先駆けて打ち上げられ、運用を開始したことから、国際的にも注目されています。2016年度には、ひまわり9号も打ち上げられる予定です。ひまわり8号では、「水平解像度の倍増」「観測時間の短縮」「画像種類の増加」と、観測機能の大幅な強化により、台風や集中豪雨をもたらす雲の移動や発達をこれまで以上に詳細に把握できるようになった上、火山灰・黄砂などの分布も高精度に把握できるようになりました。また今後は、的確な予測情報につながっていくことが期待されています。また、試験運用期間中の5月29日には口永良部島の噴煙を鮮明にとらえて話題となりました。

3位 口永良部島で噴火警戒レベル5 箱根山なども火山活動が活発化

5月29日午前9時59分頃、鹿児島県口永良部島の新岳で爆発的噴火が発生しました。同日10時7分に気象庁は「噴火警戒レベル5（避難）」の特別警報を発表し、口永良部島全域に島外への避難指示が出されました。噴火警戒レベル5が発表されるのは、2007年の噴火警戒レベルの運用開始以来、初めてのことでした。噴火に伴って発生した火砕流は海岸まで達し、噴煙は火口縁上9000メートル以上に達しました。また、箱根山でも一時的に火山活動が活発化し、6月30日にはごく小規模な噴火が発生したとみられることから噴火警戒レベル3（入山規制）が発表されました。その他にも、浅間山（6月16日）と阿蘇山（9月14日）で噴火が発生し、蔵王山（4月13日）で火口周辺警報（火口周辺危険）が発表され、さらに桜島では8月15日に大規模噴火が起こる可能性が高まったため、一時的に噴火警戒レベルが4（避難準備）まで引き上げられるなど、各地で火山活動が話題となりました。

なお、上記に加え、4位以降も含めた「日本気象協会が選ぶ10大ニュース・ランキング」の解説に関しましては、2015年12月10日以降、下記のアドレスからご覧いただくことが可能です。



■ <http://www.tenki.jp/labo/#10news>

（tenki.jp 内にて公開 2015年12月10日以降閲覧可能）

また報道関係の皆様から、上記のニュースに関する詳しい解説などをお問い合わせいただきましたら、所属の気象予報士がお答えさせていただきます。また報道にご利用いただける写真素材や、図表のご用意もごございますので、お問い合わせいただけますようお願い申し上げます

日本気象協会は企業メッセージ「ハーモナビリティ」の考えのもと、“お天気コンシェルジュ”として、日々の生活に役立つ気象情報や防災情報、四季の変化を楽しむ季節情報などを提供することで、利用者の生活を豊かにする新しい価値を届けていきます。

<本件に関する報道関係の皆様からのお問い合わせ先>
日本気象協会 PR 事務局（株式会社イニシャル内）担当：西野・有田
TEL：03-5572-6064 MAIL：tenki.jp_pr@vectorinc.co.jp